

令和6年度

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修 資料

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の
一体での推進
～子どもたちを真ん中に～

令和6年7月1日(月)・4日(木)

文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部

朝倉 美由紀

説明の内容

はじめに

子供・学校・地域の今日的課題

制度としてのコミュニティ・スクール

CSと地域学校協働活動の一体的推進(参考)

取組を進める上でみられる課題

となりのコミュニティ・スクール

はじめに



東台小学校 文部科学大臣視察





東台小学校 学校運営協議会



撮影・提供 文部科学省報道官

ある高校で



ある高等学校のコミュニティ・スクールまでの過程

地域の商店主が、アルバイトとして働く生徒の学校に地域として関わることができないかと考えました。

地域の大人ができることは、社会で生きるために必要な力や喜びや思いを直接伝えること。

聞けば、「総合的な探究の時間」が高等学校でも実施されている。

生徒が社会を学び、社会の課題を考える絶好の機会に、地域として協力できないか。

知り合いの教員に声をかけました。「地域ができることは何かないか。」

知り合い数人に声をかけ、伝えられること、伝えたいことをまとめて学校に相談しました。

学校は、地域の方と協力してどのような学習にするか考えました。

何度か関わるうちに協力してくれる地域の方が増えました。学校との話し合いの機会も増えました。

でも、何か足りないことがある…。

足りないこととは、何でしょうか。

共有する生徒像 ～どんな生徒に育てるか～

この学校の生徒をどのような生徒に育てるか。
関わる人たちが共通に持つ生徒像を整理していなかった。
関わる人たちは良かれと思って自分たちの思いを伝えるけれど、
そこに生徒の学びや課題解決の取組があるか、と振り返ると、
このままではばらばらな活動で、本当に教育に役立っているのか疑問がわいてきた。
関わる人たちみんなで、どんな生徒を育てたいのか、生徒たちはどんな力をつけたいのか一緒に相談しよう。
関わる人たちが集まり、めざす生徒像を整理した。

はじめに



そして、学校に関わる様々な立場の方が集まり、めざす生徒像をつくりました。
この高校では、地域の協力活動を発端に、必要性が生じて学校運営協議会が立ち上がりました。
生徒像を、熟議し創り上げました。

子供・学校・地域の今日的課題

子供の実状と課題

実体験の減少

仮想空間での関わりの増加

現実のコミュニケーションの減少

大人や社会との関わりの減少

課題解決する問題の多様化

若者の貧困

家庭環境の多様化

現実社会での
豊かな体験
体験と思考の結びつき

子供・学校・地域の今日的課題

学校の実状と課題

予測困難な時代を生きぬく力の育成
多様な価値観の中、多様な学力の育成
情報の中から真贋を見極める力の育成
個に応じた指導の充実
多様な背景を持つ児童生徒への支援
教員の志望者の激減
多様な社会的課題と教育課題

教育の多様化への対応
学校外から
多様な視点の共有
社会に開かれた
教育課程の実現

子供・学校・地域の今日的課題

地域の実状と課題

急激な人口減少

自治組織の組織率の低下

地域社会でのコミュニケーションの低下

社会の中での自己実現

地域への愛着・思いの減少

防災を担う意識の減少

地域活動の維持継続

地域社会での
自己有用感の享受
学びや経験のアウトプット
一人一人がつながる
仕組みづくり

子供・学校・地域の今日的課題

地域とともにある学校づくり

学校で学んだことと
社会とのつながりを知る

学校に協力する地域の方が
生涯学習のモデルになる

地域全てが学びのフィールド

学びと体験、体験と学びの
スパイラルで学びを重層化
する

子供を未来に届けるために
ともに教育を考える

子供が活動を通して
地域の方の顔を知る

子供・学校・地域の今日的課題

学校を核とした 人づくり まちづくり

子供たちが夢や希望を持って
いきいきと生活してほしい

学校に関わることで地域の
大人が結びつく

学校を核としたまちづくり

大人も、子供も
ともに育ち合いたい

大人が子供を見守り大切に思っ
ていることを子供に伝えたい

地域の子供を地域の力で
大切に育てたい

子供・学校・地域の今日的課題

子供も地域もまちも育つ仕組み

校長の学校経営方針(承認)を全面的にバックアップ

新たな学びの視点を計画的に教育課程に位置づける。

「できる人ができるときに協力」⇒「目的を共有し、一緒に子供を育てる」

学校がやりたいことを地域・保護者が後押しする。

学校に関わり、地域の方がやりがいを見出す。⇒「学びの好循環」

子供を真ん中に学校が核となって、人が育つ・地域が育つ・まちが育つ

途切れない学校経営

制度としてのコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のこと

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5

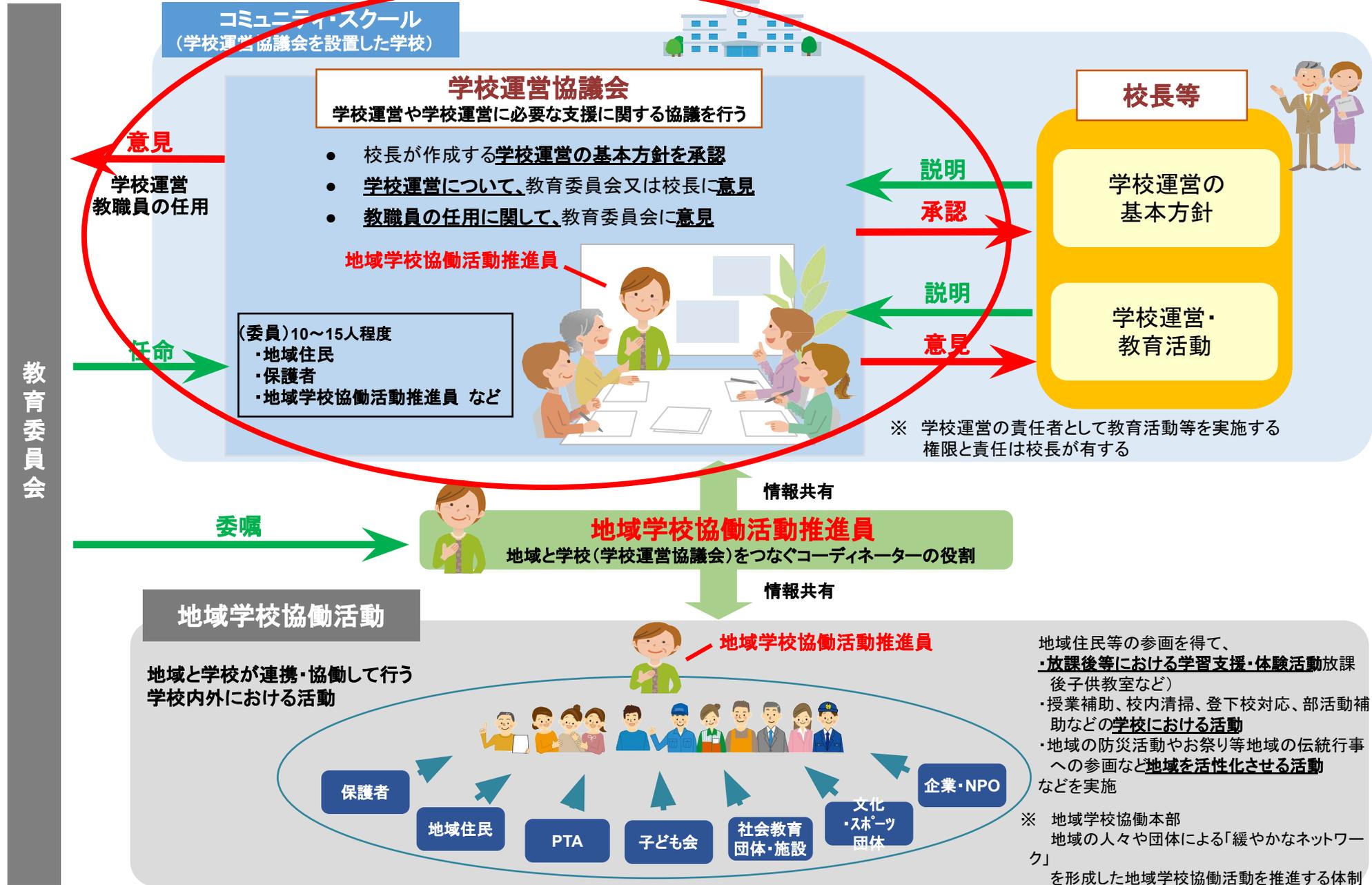
教育委員会が学校や地域の実情に応じて**学校運営協議会**を設置
＝学校の運営に関して協議する機関

3つの 機能

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができる
- 教職員の任用について、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

②制度

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



制度としてのコミュニティ・スクール

学校運営協議会委員とは

非常勤特別職の公務員に準じる身分を有する。

一定の報酬がある。

校長の意見等を聞き、教育長が任命する。

責任と権限をもつ。

守秘義務を遵守する立場である。

合議体として、他の委員と一定の方向性を定めるよう熟議する。

決まった事項について、役割を果たし実行する。

制度としてのコミュニティ・スクール

マインドチェンジ 『当事者になる』

OK から Let's への転換（話し合い型の「承認」へ）

「牛乳パックを集めてください。」(学校からの依頼)

「わかりました。」 ← 承認



「この課題に対しては、このような取組をしてみてもはどうでしょうか。」

「回覧板で町会に働きかけましょうか。ご意見はいかがですか。」

← 主体性を持った承認

制度としてのコミュニティ・スクール

学校評議員制度と学校運営協議会制度との違い

	学校評議員制度	学校運営協議会制度
根拠	学校教育法施行規則 第49条	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5
目的	開かれた学校づくりを推進するため、保護者、地域住民の意向を反映しその協力を得るとともに学校としての責任を果たす。	保護者や地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させよりよい教育の実現に取り組む。
位置付け	校長が必要に応じて学校運営に関して保護者や地域の方の意見を聞く。 個人としての立場での意見を述べるもので、校長や教育委員会の学校運営に関して直接関与したり、拘束力のある決定をするものではない。	学校運営について、一定の範囲で法的な効果をもつ意思決定を行う合議制の機関。 校長は学校運営協議会が承認する基本的な方針に則って学校運営を実施する。
役割	学校評議員は、校長の求めに応じて、または、必要と認めるときは学校運営に関する意見を述べるができる。	<ul style="list-style-type: none">・校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること・学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができる。・教職員の任用について、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

学校運営協議会における熟議とは

- 目指す児童生徒像実現のために、
 - 必要な取組を考える。
 - 見直しが必要な事項を改善する。
- 取組を新たに創らなければならないわけではない。
- 今ある教育活動を効果的にできるか、重層化する取組にできるかを一緒に考える。
- 取組を再検討・整理する契機とする。
 - 例 PTA組織、地域の防犯会議、学校の保健関係会議
青少年健全育成会議等

制度としてのコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールの魅力

子供にとっての魅力

学びや体験の充実
地域のよさの実感
身近な大人モデルの存在

地域にとっての魅力

経験や特技を生かす生きがい
学校を核としたつながりができる。
人がつながり地域が活性化

保護者にとっての魅力

地域に対する理解が深まる。
地域の中で子供を育てる安心感
地域の方との人間関係の構築

学校にとっての魅力

「社会に開かれた教育課程」の実現
子供と向き合う時間の確保
生き方を考えるキャリア教育の充

実

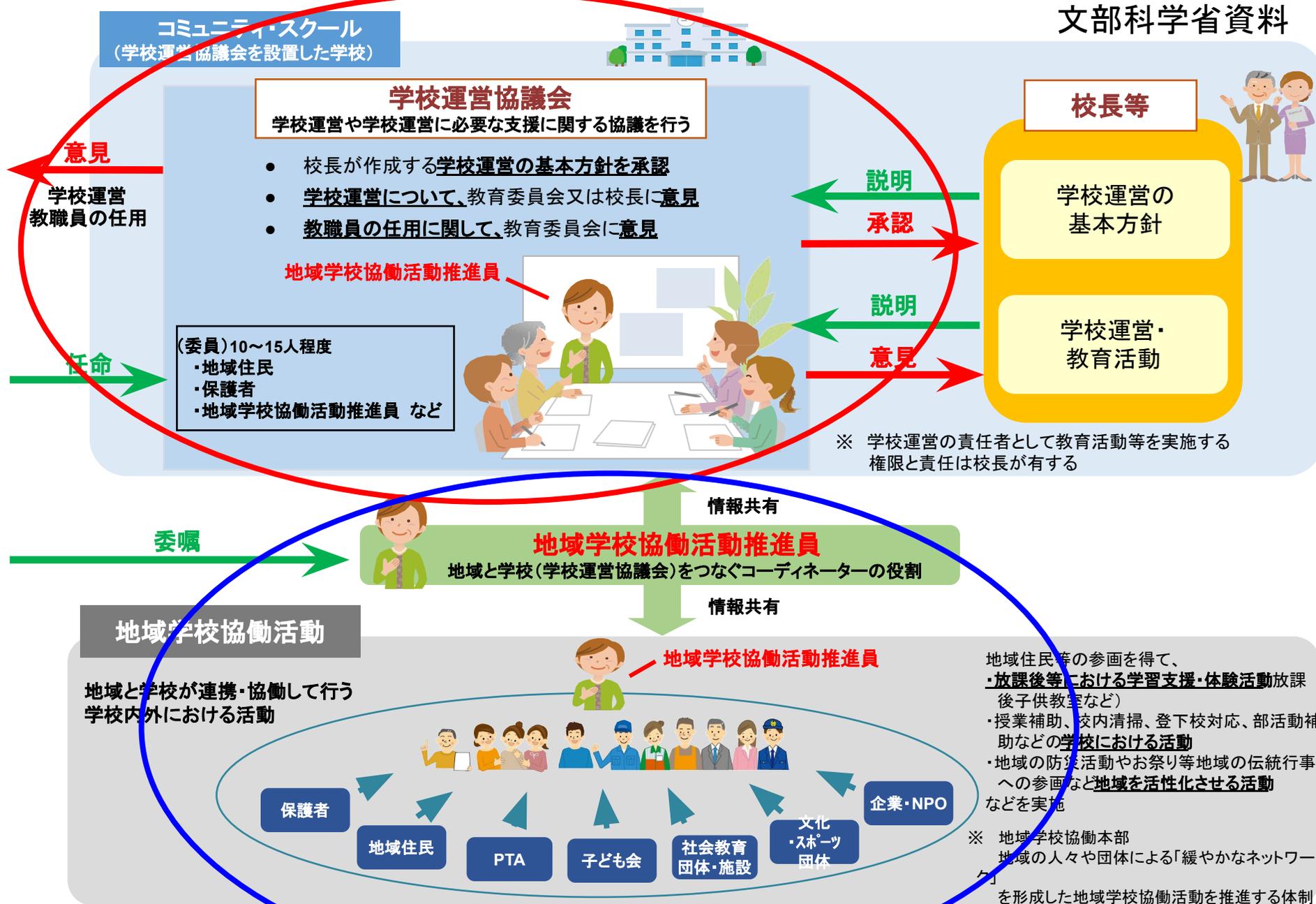
CSと地域学校協働活動の一体的推進



CSと地域学校協働活動の一体的推進

文部科学省資料

教育委員会



CSと地域学校協働活動の一体的推進

社会教育資源をつなぐ緩やかなネットワーク

(例)



地域学校協働活動推進員



地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の役割

人と人、人と学校、人と地域をつなげる。

- 学校の教育活動の理解（学校運営協議会委員を兼務の場合が多い）
- 地域の活動に関心を向ける。
- 地域への情報発信
- 地域学校協働活動室の展開・運営
（例；学校応援ルーム、フラワールームなど）

取組を進める上でみられる課題

これまでの学校支援との違いを共有

視点1 地域の子供たちを地域の力で育てる
めざす児童生徒像はなにか。

目的の共有

視点2 学校運営協議会委員が考える。
この取組が育てたい子供の姿になるのか。
これから継続する取組としてはどうか。
みんなの「いいね」でスタート

合議制
持続性

視点3 関わる人が笑顔になれるか。
地域学校協働活動推進員の役割、活躍

一体的推進

取組を進める上でみられる課題

目指す児童生徒像を明確にする

学校ごと

地域で子供を育てるといっても・・・

→子供の実状がわからない。

学校が課題としていることはわからない。

教員でない者が口を出してもいいのか。

保護者でもないのに関わっていいのか。

専門的なことはわからない。

地域の子供たちの様子もよくわからない。

取組を進める上でみられる課題

目指す児童生徒像を明確にする

知りましょう。

- 例1) 道徳の授業を一時間丸ごと参観する。
- 例2) 給食や清掃等の学校生活を参観する。
- 例3) データに基づく児童の実状の情報提供
- 例4) 教職員から直接話を聞く。

見てみましょう。

- 例1) 登下校の様子はどうか。
- 例2) 地域の行事での様子はどうか。
- 例3) 近所の子供たちの様子はどうか。
- 例4) 学校のコミュニティ・ルームで活動していると。

取組を進める上でみられる課題

目指す児童生徒像を明確にする

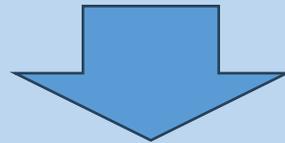
自分事

地域の子供たちをどのような子供たちに育てたいか。

子供たちの未来を想像し … このように育ててほしい。

地域の未来を予想し … このような地域になれば

子供たちの現在を考える。… そのために今何ができるだろうか。



学校運営協議会における熟議のスタート

取組を進める上でみられる課題

例) 意見交流を活性化させたい。

課題 委員が発言を遠慮する。

背景 委員の不安

協力したいけれど、学校の実状がよくわかっていないのに、的外れなことを言ってしまうのか。
自分より地域や子供と関わりのある人がいるのに、出過ぎていないだろうか。
一人一人が考えや思いを発言することをためらう会議形態

改善点 会議形態を工夫する。

例)

小グループ協議

一つのテーマを話し合う時に、小グループで意見交換をする。

分科会形式

テーマごとに分科会を作り、直接児童生徒の様子を見たり、教員から直接聞き取ったりする。

留意点 学校からのテーマ提起

委員からのテーマ提起

学校(校長)の立ち位置～質問を一問一答で受けない。

取組を進める上でみられる課題

例) 決定したはずなのに進捗が見られない。

- 課題** 実行のための計画
誰が、いつまでに、何を、誰と、どうするか。
- 背景** 本当に必要なことを話し合っているか。
熟議が十分でない。
学校が進めようとしていることと、熟議の結論に乖離がある。
- 改善点** 学校は、何ができて何ができないのかを伝える。
柔軟に考える。
様々な立場の委員だからこそその考えを伝え合う。
誰が、いつまでに、何を、誰と、どうするか。を明確にして確認し合う。
次回何を報告するのも確認する。
- 留意点** 学校運営協議会で熟議を尽くして方向性を決める。

取組を進める上でみられる課題

例) 地域コーディネーターの役割と活動の困りごと

課題 地域コーディネーターがどのように活動したらよいか、迷いや不安がある。

背景 関わる範囲が広い。
モデルが少ない。
学校で誰に相談したらよいかわからない。

改善点 地域コーディネーター研修の充実
会長、地域コーディネーター等の情報交換の場の設定
学校教職員、学校運営協議会委員の役割理解
教職員との交流の機会の設定
地域協力者との交流の場の確保

留意点 地域交流ルームなどの設置は、地域と学校の交流の接点になる。
場所があっても、人がいないところには人も情報も集まらない。

となりのコミュニティ・スクール

子供の思いを発出し、実現する。



となりのコミュニティ・スクール

子供が育つ「ふるさと」を誇りに

地域で学ぶ。地域を学ぶ。

地域を好きになってほしい。

地域の成り立ちや歴史を知ってほしい。

地域の人たちの思いや願いを知ってほしい。

どのような学習を大切にするか。

どのような活動ができるか。

直接地域の方から学ぶことは、

地域の方の思いを知ること

地域の伝統文化・産業に携わっている方との学習→文化保存への関心

地域の環境保全に関わっている方との学習→保全活動の参画

地域活性化を考えている方との学習→地域課題の解決案への取組



となりのコミュニティ・スクール

地域一丸となって子供を育てる。

例) 中学校区の地域と学校とがともに「あいさつ運動」の取組

地域の方が協力している姿

地域のために地域の方が考えている姿

地域のために地域の方が動いている姿

一緒に活動してわかってくること

活動の後ろ姿から考えること

地域や子供たちへの思いを感じ取ること

子供たち自身ができることの模索

あいさつ運動のポスターの作成

町会掲示板への掲示協力依頼、活動

地域と子供たちの関係性の変化



となりのコミュニティ・スクール

活動の拡大 個人の活動から市民大学へ

例) 学習への支援

経験や知見のある方が協力を申し出る。
一校で教職員とともに教育計画作成や研修に関わる。
子供たちの学習の支援を行う。

活動の充実とともに

この活動を地域の方の力で拡大できないか検討
市民大学の講座の設定
有識者が講師となって、関心のある方への講義等を担う。
地域人財を育成し、市内の学校への応援を充実

市民大学の本来の役割の発揮

学んだことを地域に活かす社会貢献の実現
学び続ける地域の方の姿が、子供たちのキャリアモデルになる。

CSと地域学校協働活動の一体的推進がもたらす未来像

一体的推進の3つの効果

社会総がかりで子供を育てる仕組みづくり

子供が育つ、大人が育つ、地域が育つ

生涯を通じて学び関わることのモデル化

